

## Film Review

### ト迫力! 山岳アクション映画 『ミッドナイトイーグル』

新しくオープンしたイマジニアアン・センター(別掲参照)、第一作目の上映となるのが、この「ミッドナイトイーグル」。日本でもロードショー上映が始まったばかり、お正月超大作映画だ。

西崎優二(大沢たかお)は、世界の戦場を駆け巡るカメラマン。しかし、ある出来事をきっかけに、北アルプスの山にひとりこもるようになっていた。そんな西崎が映した一枚の写真に見える赤い光。山岳部の後輩で新聞記者の落合(玉木宏)は、西崎の亡くなった妻の妹、写真誌記者の慶子(竹内結子)にその写真を分析してもらうことにする。そのころ、内閣総理大臣・渡良瀬が国家非常事態の一報を聞く。北アルプス上空で米軍のステルス爆撃機・ミッドナイトイーグルが墜落したというのだ。しかも、その雪山には、某国の工作員が潜入中だ…。

“邦画史上最大スケールの本格山岳サスペンス・アクション誕生”と謳うだけあって、日本映画もやるんだなと思わせるシーンが続く。爆破シーンくらいなら驚かないが、撮影前に特訓したという雪山のシーンは、過酷さが画面から漂ってくる。街中の制限が厳しいためカー・チェイスやお金のかかるアクションシーンは、ハリウッ

玉木宏(中央)に演技指導する成島監督(左隣)



ドには及ばないが、雪山のような俳優とスタッフの忍耐勝負なら、日本映画は強いんだと思う。撮影は命がけだったろう。こうした緊迫感が画面に演技以上のものとして伝わっている。

### 雪山で命がけの男たち ぎりぎりで見せる人間の気高さとは

しかし、この映画の本当の感動のしどころは、雪山での撮影でも、自衛隊が全面的に協力したという空中アクションでもなく、それは“人間の気高さ”だ。登場する誰もがぎりぎりの決断を、誰もが我が身を構うことなく、下す。涙をこらえるのに苦勞した。

映画は131分とちょっと長い。しかし、一度も時間を感じさせなかったのには、今も驚いている。キャストたちの好演は大きい。主演の大沢たかおがブラビばりに外見なりきりから入る演技で、脇の玉木宏や吉田栄作と熱いチームワークを生んだ。俳優はほぼ良かったから、成島監督は、オトコオトコしたのを撮るのがうまいのかもしれない。

この映画はユニバーサル・ピクチャーズが製作に参加、海外での上映を狙っている。日